



TITLE:

世界經濟の動向

AUTHOR(S):

柴田, 敬

CITATION:

柴田, 敬. 世界經濟の動向. 經濟論叢 1939, 49(1): 45-61

ISSUE DATE:

1939-07-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/131273>

RIGHT:

經濟叢論 每月一日發行
昭和十四年七月一日發行
大正十四年六月二十一日第三號郵政特准掛號

京都市帝國大學經濟學會 經濟叢論

第十四卷 第一號

昭和十四年七月

(禁轉載)

京都帝國大學經濟學部創立二十年記念論集

田島・戸田・神戸・小川・河上・河田・山本・作田の前八教授肖像

記念展覽會及講演會寫眞

國家の社會的構成

完全豫見の問題

時局下に於ける農業計畫生産

世界經濟の動向

小工業の特質と其の助成方針

ナチスの經營共同體の理論及び構造に就て

徳川時代の經濟統制

信用理論と其の經濟的基礎

企業聯繫としての再保險

マックス・ウェーバーの國民主義

ロバートソンの物價變動理論

中小工業と市場

沒價値性理論の成立

政策學としての日本經濟學

日本經濟學の根本原理

經濟學部二十年を回顧して

經濟學部創立二十年記念經濟學會大會記事

彙報

外國雜誌論題

法學博士	河田嗣郎
文學博士	高田保馬
經濟學博士	八木芳之助
經濟學博士	柴田敬
經濟學士	大塚一朗
經濟學士	中川與之助
經濟學士	堀江保藏
經濟學士	中谷實
經濟學士	佐波宣平
經濟學士	白杉庄一郎
經濟學士	青山秀夫
經濟學士	田杉競
經濟學士	出口勇藏
經濟學博士	谷口吉彦
經濟學博士	石川興二
經濟學博士	本庄榮治郎

世界經濟の動向

柴田敬

序

世界は従つて世界經濟は現在大混亂の坩堝の中に投げ込まれてゐる。何時大戦争が勃發するか知れない、と言ふやうな氣配が世界を蔽つてゐる。日常生活が戦場へ直通するやうになつた。世界の舊秩序が愈々根底から搖いで來た。經濟統制がぐんぐん強く喰ひ込んで來た。舊來の思想が片つ端から吹き飛ばされて行く。

此の世界的大混亂に直面して、或人はそれを世界史發展の常道からの一時の「外れ」と念ひ、或人はそれを押しの一手で萬事解決され得る事の實證と感受してゐるやうである。前者に屬する人々は現下の世界的大混亂の中に頭を擡げる何れの新勢力にも疑惑の念を抱き遺憾を感じ冷膽であり、後者に屬する人々は時局の進展につれて愈々乘氣になり益々猪突的になつて來てゐる。けれども、歴史を繙く者の等しく識れる如く、凡そ時代の大旋回に際しては、人は往々にして、舊秩序に囚はれて新秩序の黎明を見得ず、或は反對に、新秩序生成の氣運に囚はれて其の基礎を見失ふものであり、斯くして國を過り世を誤るものである。今や世界的大混亂に直面せるが故に吾人は此の世界の動向を看破しなければならぬのである。

由來、科學は豫言せず、と言はれてゐる。少くとも、品位ある學徒は豫言しないものとされてゐる。けれども、

時代は學徒に對して道を照らす事を切望してゐる。此の時代の要求は、品位などにこだわつて無視すべく餘りに切實であり眞剣である。我等の科學は此の求められてゐる道を照し出すべく何等かの光を與へ得ないものであらうか。單純なる偶感よりもヨリ以上の何等かのものを、吾等の科學は當面の問題に關して與へ得ないものであらうか。

問題は餘りに大きい。私ごとき未熟者の取扱ひ得べき問題ではない。殊に私は此の問題を取扱ふ爲の準備を殆んど全く持ち合せてゐないのである。私が本稿で企圖し得る所は、此處に學徒の心血を注ぐべき重大問題がある、と、野に叫ぶ者の役割を演ずる事である。本稿の不備、誤謬は、やがてゾクゾクと現はれるべきヨリ優れたる學者のヨリ優れたる研究に依つて補充され是正されるであらう。

此處では、問題を經濟の分野に限定し、且つ、そのうちの特殊の二三の側面だけを、即ち、經濟統制、資本主義及び聯邦(ブロック)經濟の三者の推移の問題だけを、考察するに止める。それも、詳細なる論究は之を斷念し、極く大すぢだけを略述する事にする。但、當面の問題の性質を明かにする爲に、私が嘗て「資本主義と支那事變」なる小論をものするに際して述べた所の次の句を此處に引用して置く。「言ふまでもなく、歴史的實在の意味は、定まつて定まらざるものである。けだし其の實在が其處に在る限りに於いては其の實在の意味するところは規定されてゐるわけであるが、其の實在の意味するところは更に、……その後如何なる歴史的實在が繼起せしめられるかに依つても、影響を受けるものであるから。此の意味に於いて、歴史的實在の意味の規定は、實踐的立場からするに非ざれば爲し得られざるものである。此の歴史的實在の意味の規定は、勿論、學徒個々人の恣意的なる

主觀的實踐的立場からは、斯かる立場が自己實現力を持たざるものである以上、所詮不可能である。従つて、歴史的實在の意義の實踐的規定はどうしても歴史的實在其のものの中に内在し生動せる力の客觀的實踐的立場からなされねばならない。而も此の歴史的實在其のものの中に内在し生動せる力の客觀的實踐的立場に立つと言ふ事は、學徒自身の主觀的實踐的立場が充分にそれを含み得るものとなつて居らねば學徒にとつては不可能である。此の點に歴史科學の特殊の困難が存するわけであり、又此の點に歴史科學の特殊の使命が存するわけである。」

經濟統制は強化される

一體經濟統制は一時の現象でないのであらうか、と言ふ事を私は屢々質問される。此の質問をされる毎に私は答へて來た、そして今も答へる、經濟統制はもつと強化されるであらうと。然らば如何なる理由で斯かる見通しをつけるのであるか。

第一の理由は、今日では殆んど常識と言つていい所のものである。資本主義は今日既に相當の程度まで獨占化してしまつてゐる。然るに完全に或は不完全に獨占化したる企業乃至企業結合は、或は直接的に、或は價格指令を通じて間接的に、生産を制限して廣い意味の獨占利潤を、或は積極的に、或はさもなければ負擔しなければならなくなる所の損失を他に轉化すると言ふ仕方で消極的に、獲得しようとするのであるが、其の事は、一方では當該産業に於ける資本投下の制限を意味し、他方では社會的利潤中のますます大なる部分を斯くして引き去る事に依つて其他の企業の與り得る利潤をますます僅少にしそれ等の産業の利潤率を低下し、其等の産業への投資を

も壓迫する。而も此の事は、國民所得の増加をそれだけ妨げるわけであるから、それだけ又獨占產物に對する需要を毀損し従つて獨占產業に於ける投資をも壓迫する。資本主義の發展段階に於いては、不況が続けば金融機關の手許に次第に資金がダブついて來るやうになりやがて金利が充分引下げられ低い率の利益しか舉げ得ないやうな事業の着手をも可能にするやうになり、資金が市場に流出して行くのであるが、資本主義が獨占段階に入つて一般利潤率が右の如く低落してしまふと、銀行が如何に貸付利率を低下して見た處で、銀行の行ひ得る程度の貸付利率低下を以つてしては、充分に多くの事業の着手を可能にする事は非常に困難になるのである。斯くして資本主義の獨占化に連れて生産物と資本との過剰が、即ち購買者を見出し得ざる生産物と投資口を見出し得ざる資金との堆積が、恒常的現象となり、不景氣の執拗性が頗る加はつて來る。のみならず、資本主義の獨占資本主義化は更に、一方では勞働運動を刺激し普遍化し尖鋭化する傾向を有し、他方では既存固定資本擁護の爲に或は新銳生産方法の進出を妨げ或は國際分業を不自由にする等々によつて生産力の發展を阻害する傾向を有するものであるが、之等の事は、直接間接に企業の収益率を減殺し、右に展開せられたる生産過剰乃至資本過剰の傾向を加重する。而も此の事は、投資の伸張力喪失を意味するものであるが故に、又、資本主義一般に内在する固定資本増加傾向に拍車するものであるが故に、失業の激増を伴ふものでもあるのである。従つて、資本主義の運行を圓滑ならしめる爲にも、國民大衆の生活不安を去除く爲にも、將又、國民團體の生活の安定的發展を期する爲にも、資本の獨占化の程度が進むにつれて、國家による購買力補給と言ふ事が益々必要になるのであるが、斯くの如くして社會的總需要中に占める國家需要の割合が不可避免的に増加するに連れて、國民經濟に對する國家の統制力は

増加する。斯くして經濟統制ヨリ正確に言へば國家的經濟統制の強化は獨占資本主義世界經濟の大勢となつたのである。従つて此の大勢は、世界資本主義の獨占化を必然ならしめた根本原因が現存し發展し續けてゐる限り、堰き止め得べきものではないのである。

經濟統制の強化を不可避と見る第二の理由も、今日では殆んど常識と言つていい所のものであり、第一の理由と密接なる關聯を有するものである。資本主義が獨占化して動脈硬化症に悩んで來るに従つて、過剰生産物乃至過剰資本の捌口たる植民地の要望が愈々強くなり、植民地の確保乃至獲得の爲の國家活動が愈々激しくなる。さうなると、それ自身の勢力圏内に充分なる國防産業の基礎を有せざる「持たざる國」は、それを有せる「持てる國」の指令下に置かれる危險に晒されるのであり、従つて「持たざる國」が何等かの意味に於いて溢るゝばかりの發展力を有せる限り、其の發展の桎梏となれる舊秩序を打破せんとして身を固める事になる。而も其の事は持てる國を刺戟し、豪然として立ち上らしめる。斯くして時局は愈々戰爭の危機を孕む事となるのである。のみならず、世界の地域の六分の一、世界の人口の十分の一、を擁するロシアに於ける革命の成功は、世界資本主義の分業體系の中から重要な一部分を切り去る事によつて資本主義の運営に狂ひを生ぜしめたるのみならず、それ自體の刺戟力と宣傳乃至策謀によつて、各國の社會不安を激化し、弱小民族の反抗を尖鋭化する。而も、此の攪亂作用は、ソ聯に於ける強度の社會主義的計畫經濟の下に強行軍的に築き上げられる所の軍備の増加によつて、愈々甚だしくされる。此處に於いて、資本主義を擁護する爲にも、將又、國民團體の統一を確保する爲にも、武裝が固められる。のみならず、勞働運動鎮壓の機會を作つたり軍需増加によつて購買力缺乏の補ひを得たりす

る爲に國の武裝を煽つたりする者もあらはれる。斯くして戰爭の氣運は愈々濃厚になる。然るに、一度び斯うした大勢が出来た以上は、此の危機を乗り切る事によつて到達せらるべき境地と乗り切り得ずして陥るべきそれとの間の懸隔が非常に大きくなるので、中途半端な解決は不可能になり各國とも必死の勢で軍備擴張をなすのであるが、其の事は今日の戰爭技術上國民經濟の凡ゆる部分にまでも及ぶやうな統制を不可避にするのである。

第三の理由は、第一第二の理由として述べられたる處のものの一側面とも言ひ得べきものである。事情が第一の理由として述べられたる處のものに止まる限り國家は市場の購買力不足を補ふ爲に購買力を放出しなければならぬのであり、事情が第二の理由として述べられたるものに進む限りたとへ市場に購買力が不足してゐなからうとも國家は國防計劃を遂行すべく購買力を市場に放出しなければならないのである。何れにしても國家は益々莫大なる購買力を放出しなければならないのであるが、此の事は、一方では國內に於ける資金統制其他の金融統制を必要とし、他方では國定貨幣と世界貨幣との間の通路の統制従つて爲替統制、對外資金移動統制、等々を必要にする。而も之等の統制は一般的經濟統制を俟つに非ざれば充分に其の實を擧げ得ないのであるから、右の統制を必要とする事情が愈々切實となるに連れて、一般的經濟統制も不可避的となる。

以上に於いては言はゞ經濟統制化の表面的理由とでも呼ばるべきものを掲げたのであるが、其處にはまだ經濟統制化の基底的理由とでも呼ばるべきものが残つてゐる。元來經濟統制は頗る煩鎖な手續を要し、活動の敏活を妨げ、人の創造性を殺し、不羈獨立の生氣を失はしめるものである。だからこそ、近代資本主義は經濟統制を打ち破つて自由經濟活動を旗幟として進むに事よつてよく其の生産力の飛躍的發展を齎らし、歴史的な使命を果し

得たのである。従つて、それが如何なる事情によつて生じるにせよ、經濟統制は、經濟自由制に比すれば、其の生産性劣る筈であり、従つて、若し他に生産性大なる經濟自由制を採つた國があるとするならば其の國の國力の方が伸張してやがては他を惹きづる事となる筈である。時局の急に應ずる爲に今日でこそ統制經濟々々と叫ばれてゐるけれども時局が落付けば必ずや經濟自由制が復活されるであらう、と考へる人の胸の奥には右の如き物の見方が秘められてゐるのである。勿論今日の經濟統制の中には時局火急の場の爲に生じたものゝある事は否定出來ない。けれども、我々は、時局火急の秋だからこそ手のつけられて居らない經濟統制面のある事を忘れてはならない。併しそれはとにかく、今日に於いては、國家的統制經濟と自由經濟とを比較して何れが可なりやと言ふやうな事を議論する餘地は無いのである。今日の生産技術の下に於いては、統制經濟即ち國家統制經濟によらないとするならば、獨占資本家的統制經濟があるばかりである。而して、獨占資本家的統制經濟が如何に經濟の運營を阻害するものであるかは、經濟統制強化理由の第一を述べるに際して、明かにしたる所である。斯くの如く動脈硬化せる獨占資本家的統制經濟に比するならば、國家統制の方が遂に生産性大である。のみならず、經濟自由制がヨク生産力の飛躍的發展を齎らし得たのは、それが生産技術上の革命的發展を誘發したのに依るのであるが、生産技術の發展はそれが愈々進むにつれて、個々人の單なる思ひつきだけで物になるものは殆んどなくなり、統制ある大規模の研究機關の活動に俟つ事が益々多くなり、又、個々の企業で試用し得る程度の小規模のものでなくなり、當座の損得などはかまわずに極く長期の將來を念頭に置いて大規模に試用するを要する態のものになつて來てゐる。従つて生産技術上の發展も今後はむしろ統制下に於いての方がヨリよく行はれ得べき次第に

なつてゐるのである。その上に、現代の交通通信機關の飛躍的發展は、廣汎域の經濟統制を非常に便にしたのである。斯く考へて見るならば、我々は、今日に於いてこそ時局の急務と言ふ事の爲に真相が蔽はれて何だか時局の急務だけの爲に經濟統制が強化されてゐるかのやうに見えてゐるけれども、實はさうでなくて、經濟の統制化こそは今日世界を曳きづゝてゐる根本的な大勢である事を知るであらう。

資本主義は退場する

資本主義經濟の資本主義經濟たる所以は、それが廣く團體全體の生活に如何なる影響を及ぼしてゐるかと言ふやうな事は第二次の問題としたゞ個々の資本の利益が一寸でも大である事を何よりも大事な事として活動してゐる所の人々の手に團體經濟運營の實が委ねられてゐる點にある。資本が分散的に活動出來た間は、それぞれの資本が自らの利益の一寸でも大である事を何よりも大事な事としつゝ相互に競争して活動する結果、團體全體の生活にとつて有利な結果が大體に於いて齎らされてゐたのであるが、資本が資本主義必然の要請に従つて獨占的集中的に活動するやうになると、事情は異つて來る。處が、それが如何に異つて來るかに就いては我々は曩に一寸述べたのであるが、それが何處をさして變化して行くかに就いては、今日重要な見解の對立がある。其の一つは統制的資本主義となすものであり、他は資本主義は退場するとなすものである。

資本が愈々獨占的集中的に活動するやうになると、統制的資本主義となる、となすものゝ中には、更に、獨占的集中の資本が國家權力を驅使して社會關係を固め經濟活動を計畫して經濟的均衡を確保する事によつて資本主

義は漸く安定的發展の態勢を採る、と見るものと、獨占的集中的資本が國家權力を驅使して社會關係に介入せしめ却て國家の階級性を曝露し階級對立を激化し經濟活動を計畫しようとして却つて資本主義的生産の本來的無政府性を觸發する事によつて資本主義の内在的矛盾は愈々激化し尖鋭化する、と見るものとある。一部の左翼理論家によつて包懷せられてゐた前者の見解は今日では暗黙のうちに資本主義擁護者によつて何よりの頼みとされ、後者の見解は今日に於いても左翼理論家によつて暗黙のうちに支持されてゐるやうである。併しそれは兎に角、現下の世界の大勢を統制的資本主義へ向へるものとして把握せる點は、之等の人々に共通である。

斯うした見解は、決して全面的に誤つてゐるわけではない。現在の世界の大勢を鳥瞰するならば、右の如き見解を裏書きする幾多の事がある。市場の缺乏と社會不安とに悩める資本家が、植民地を獲得したり勞働運動鎮壓の機會を作つたり國民の關心を外に向けたり軍需増加に依つて購買力缺乏の補ひを得たりする爲に國家主義運動を煽り、又、社會不安の緩和と購買力の増加とを得んが爲に社會政策を謳歌するが如き、更には、國民大衆が國家の爲に身命を捧げて活躍してゐる時に其の裏にかくれて其の努力に便乗して資本的利益の伸張に狂奔せる者のある如き。

けれども、だからと言つて、現下の世界の大勢を統制的資本主義へ必然的に向ふものとして把握するならば、それは眞理の一面を見て他面を見得ざるものである。けだし、私が嘗つて書いたやうに、「かりに國家主義運動が何等かの階級的利益の爲に利用すべく呼び出されたものであるとしても——實は必ずしもさうは言へないのであるが——、利用者が正にそれに呼び掛けねばならないほどの潜在的勢力を國家主義運動が既に持つてゐたと言

ふ事、及び、一度び呼び出されるや否や國家主義運動はそれ自身自覺を高め力を加へて、利用者自體をも批判するに至り得るものであると言ふ事、それは否定する事の出来ない事であるからである。併しそれだけではない。時局の推移は更に資本主義の退場を言はゞ外部から愈々強く要請するやうになつてゐる。

と言ふのは外でもない。曩に述べたやうに、世界の國々にとつては、現下の世界的危機を乗り切る事によつて到達し得べき境地と乗り切り得ずして陥るべきそれとの間の懸隔が非常に太きくなるので、中途半端な解決は愈々不可能になり各國とも其の總力を舉げて事に當らねばならなくなるのであるが、其の爲には、高い利潤を呉れねば働かないと言ふやうな事が不可侵權でもあるかの如く臆面もなく唱へられてゐるやうな事では逆も駄目である。どうしても、企業者は企業者としての勤務に對するつゝましやかな勞賃で満足して全力を捧げて業務に勵み勞働者も之に倣ひ國民舉つて戦場にある者の自覺を持ち本氣に眞劍に國家に奉仕するやうにならねばならぬ。此の點に於いて他國に劣る國家は現下の世界的危期に於いて敗退者となる危険に曝される。此の危険は時局が進展して國民生活に對する壓迫の度が高まれば高まるほど甚だしくなる。従つて、現下の世界的危機を乗り切らうとする限り各國は否でも應でも資本主義を脱却しなければならぬ。従つて、時局の試練の下に、獨占的集中的資本は、資本主義的安定的發展の方向へも又資本主義的矛盾激化の方向へも進まず、却つて、資本主義的矛盾の逐次の非資本主義的克伏を通じて一步又、百歩、非資本主義的なものへ轉化して行くのである。實に現下の世界的危機は今日の遙に進歩したる物質的生産力が可能にした所のヨリ理想的なる經濟組織を熔し出すべき煉獄の火である。

そればかりでない。時局の急務は世界の各國を驅つて重工業の確立に懸命の努力をなさしめてゐる。如何にも一昨年の秋から昨年の中頃までにかけては、世界の重工業生産高は一時的の反動状態を呈したが、世界各國が其の重工業の確立をあせつてゐるのは蔽ふべくもない事實である。けだし一旦緩急ある場合は結局は自國の武器供給力に依存しなければならないのであるから。然るに、斯くの如くして飛躍的に擴充された重工業を以つて平時體制に進む日が來るとするならば、而して其の日に依然として資本主義を採つてゐるとするならば、重工業は極度の生産設備過剩に悩む事になる筈である。其處で一部の人々は、平時に於いては其等の重工業產物を海外市場に投資しつゝ重工業を運轉し、いざ事と言ふ場合に其の對外投資を中止して軍需に應ずると言ふやうにスウィッチの切り替えをやるべきである、と考へてゐるやうである。けれども、忘れてならない事は、他の資本主義國でも同様に考へてゐると言ふ事である。どの國も其のやうに考へて重工業を擴充して置いて、いざ平時體制に移ると言ふ段になつて外國へ投げ賣りをしようとするならば、世界市場は重工業製品の投げ賣で滿され世界の重工業界は徹底的な打撃を受ける事になるであらう。其の影響する處は恐らく先年の世界大恐慌の比ではあるまい。そこで一部の資本家は今日既に懼れをなして、重工業のこれ以上の擴充に熱意を持たなくなつてゐる。けれども時局の火急の必要はそのやうな怠業を許さない。然る以上は、重工業を擴充しても反動のないやうな非資本主義的體制を今のうちから次第に固めつゝ堂々と重工業擴充をなすか、さもないければ、今のうちは時局の必要に驅られて兎に角重工業を擴充して置いて後になつて其の反動を避ける爲に非資本主義的體制に移行するか、何れかの道か所詮とられねばならなくなるであらう。従つて此の一點から見ても資本主義は退場する外あるまい。

元來資本主義が生産力の飛躍的發展を齎らし歴史的大使命を果し得たのは、主として、自由資本主義としてあり、従つて、自由資本主義の存立を許す如き地盤の上に於いてである。従つて、經濟自由制が存立し得なくなり經濟統制が必至となると言ふ事其の事が既に資本主義の必然的退場を要請してゐるのであつて、上述の諸事情は要するに此の必然性の反映に他ならない。經濟統制は強化する、然るに強化される經濟統制は、生産者の自覺的參與を益々多く要するものであるが故に、生産者の自覺的參與を醸成する如き生産關係を益々強く要求する、と言ふ點に其の事があらはれてゐるのである。のみならず、經濟統制の強化を不可避にする如き新生産方法自體が既に生産者の自覺的參與を益々多く要する如き性質を持つてゐる。「科學の發展は益々技術の細分化・精密化を伴ひ、重化學工業の發展はその量的發展と共に質的發展を伴つてをり、かくて……重工業の發展は……新らしい精密工業の興隆に外ならない。今日、普通の工作機械製作所に於ける部分品の重要部分は一耗の百分の一を基準にしてゐる。また航空機工業乃至特殊な軍需用品に於ける精度は千分の一耗を基準にしてゐるものも尠くない。……かくる現状に相應して益々不足してくるものは應度な熟練性を有した職工である。……（斯かる熟練工は）決して單純な賃銀の刺戟などに依て働くのではなく、體の調子や作業場の環境や生活の條件等々がピツタリと一つの作業のうちに集中される境地に於て、（はじめて充分に働き得るのである）。」従つて、今日の生産技術の下に於いては、「生産場裡に於ける最も良質の勞働——生産能力は、過去の時代のやうな搾取的な資本主義的作業場に於ては到底造り出されない」やうに益々なつて来る。

聯邦經濟は固成する

茲に聯邦經濟と言ふのは普通にブロック經濟と言はれてゐるものに當る。聯邦經濟を己が經濟とする處の其の超國民團體的團體は、多くの場合、未だ充分に歴史的背景を有せず、共同の文化や血の繋がりや分身としての思想感情やを其の團員全般に就いて見得ず、或る程度まで慣習、法令等の制度や交通機關其他の施設やに依つて秩序づけられてはゐるものゝ國民團體のそれに比すれば遙かに劣り、團體意志決定遂行機關を有してはゐるものゝ其の團體統御力は國民團體の場合に於ける國家のそれに比して遙かに弱い。従つて此の團體は、多くの場合少くとも將來相當の期間に互つて、國民團體を解消せしめるものではなく、國民團體をそれとして認めつゝそれをヨリ高き立場に於いて包攝せるものとなるであらう。これ此の團體の經濟が聯邦經濟と呼ばれる所以である。ブロック經濟と言ふ言葉は往々にして帝國主義的聯邦經濟のみを指すものゝ如く取扱はれてゐる。此の意味に於いても、帝國主義的と言ふ規定を受けたものに限定せざる聯邦經濟なる用語がヨリ適當と考へられる。

世界經濟は五つ乃至は六つの聯邦經濟に分裂的に集結しつゝある、と言ふやうな事が問題にされ出してから既に相當の年月を經過した。而して世界經濟は大體に於いて聯邦經濟に分裂的に集結する方向に進んで來た。北米聯邦經濟は既に早くから固成してそれ自體單一の國民經濟と看做され得べきほどになつてゐる。ソ聯邦經濟も大體これに近い、尤も色々の問題を藏してはゐるが。英聯邦經濟は單一の國民經濟と看做されるべく未だ餘りに弱き紐帶より成るのではあるが傳統の久しき又策の老獪なる能く紐帶の弱さを償つて世界に跨る大聯邦經濟の實を

舉げてゐる。歐洲聯邦經濟は獨伊の進出によつて、次第に結成されて行く。而して東亞聯邦經濟は愈々其の礎を据えられた。斯くして、何等かの程度に於いて右の諸聯邦經濟の何れかの一つ乃至數個の中に事實上包攝されてゐない世界の地域はもはやなくなつた。だが、此の傾向は今後も續くものであらうか。

此の問題を考察して行くに際して何よりも先づ明かにしなければならぬ事は右の傾向が世界資本主義の獨占化と必然的な關聯を有する事である。曩に述べたやうに資本主義が世界を舉げて獨占化して行くにつれて、世界各國は愈々軍備擴張に懸命の努力をせずには居られなくなるのであり、それ自身の勢力圈内に充分なる國防産業を確立するの必要を愈々切實に痛感せずには居れなくなるのであるが、國防産業の確立は今日の戰爭技術からすれば相當廣大なる地域に互る經濟の一體化を前提する。蓋しそれは、鐵、非鐵金屬、輕金屬、燃料、食料、等々に於いて相當の程度の自給力を持つて居らねばならぬのであるから。従つて、世界の富源(天與の物的資源)及び人的資源の分布狀態と各國の力關係とによつて規定されながら相當廣大なる地域に互る一體の經濟従つて聯邦經濟が必然的に將來される事になるのである。

生産技術が進むに従つて、大量的生産従つてヨリ大なる社會的分業體系の確立の必要が愈々加はつて來るのであるが、而も他方では、曩に述べたる如く、獨占化が促進され所謂國際經濟交通は愈々阻害されて來るのである。此の矛盾する二つの力を具體的に止揚するものは、今日の發展段階の生産技術を相當の程度に生かし用ふるに足るだけの社會的分業體系を言はゞ集約的に確立する事である。それは、資本主義の獨占化の結果言はゞ粗放的な世界的分業體系の安定度が毀損されるればされるほど、又、生産技術の進歩の結果大なる社會的分業體系の確立の

必要が切實となればなるほど、愈々不可避的となる。一應は現下の世界情勢の下に於いて不可缺なる國防産業の確立の爲と言ふ姿を以つて要請されてゐる所の聯邦經濟は、此の意味に於いて既に進歩性を有してゐるのであり、來るべき時代を荷負ふべき資格を持つてゐるのである。

併しそれだけではない。聯邦經濟を必然的に將來する所の基本的事情は、曩に述べたる如く同時に經濟統制を強化せしむべく作用してゐるのであり、經濟統制強化の過程と世界經濟の諸聯邦經濟への分裂的集結の過程とは相互に因となり果となりつゝ進行するのである。蓋し、複雑多岐なる内容を持つ大團體經濟の統制はそれが相當の程度の自給自足性を有する場合にはじめて可能となるのであり、自給自足はそれが少くとも聯邦經濟ほどの太さのものである場合に生産力を傷付ける事なしに可能となるのであるが、聯邦經濟確立への各國の努力は經濟統制強化の必要を愈々切實なるものとなすのであるから。然るに經濟統制の強化は我々が曩に見たる如く物質的生產技術の今日の發展段階に於いてはヨリ大なる生産力の發揮を可能にするものであり、進歩性を有するものである。聯邦經濟は此の意味に於いても進歩性を有してゐるのである。のみならず、經濟統制の強化は曩に考察したる如く資本主義の退場を不可避にするのであり、物質的生產技術の今日の發展段階が可能にした所のヨリ理想的なる經濟組織を不可避的に將來するのである。聯邦經濟は此の意味に於いても進歩性を約束されてゐるのである。勿論現實の聯邦經濟は未だ多分に帝國主義的臭味を残してゐる。けれども、時局の急は、經濟統制——それは右に述べたる如く聯邦經濟と密接に關聯し合つてゐる——の強化を通じて、帝國主義的不純分子の混入せるものゝ弱さを愈々痛感せしめ、かゝるものを敗退者の群の中に投げ込むか、乃至は、かゝるものに其の自己純化を強要

する。

聯邦經濟は斯くの如く進歩的な内部構造を持つやうになる事を不可避的に要請されてゐるばかりでなく、世界の舊秩序の下に於いて虐げられて來た諸民族を具體的に解放する使命を持つものとしてあらはれてゐる。世界の舊秩序の下に於いては、虐げられたる諸民族はそれが別々に如何に自己解放の爲に立ち上らうとしても、力關係上所詮敗退せざるを得ない。然るに、彼等のうちに聯邦經濟を固成するものが出來て來るにつれて、事情は一變する。世界の舊秩序の下に於いて虐げられて來た諸民族は此處に其の自己解放の刺戟と基礎とを同時に得る事になるであらう。此の事は、今日其の生れ出づる者の悩みを悩みつゝある聯邦經濟がまさに其の生成の悩みの眞中にある事の爲に帝國主義的なザンサイを多分に有し軍國主義的な色調に濃く塗られてゐるが故に、兎角蔽はれ勝であるが、聯邦經濟が曩に述べたる如き歴史的要請の下に純化して來るに連れて、次第に輝き出し牽引力を發揮し出すであらう。其の事の始まる日、世界の舊秩序の下に於いて虐げられて來た諸民族ははじめて解放せられたる者としての自由なる呼吸を世界の中で呼吸し得るであらう。殊に、一定の秩序の下で勝れたる能力も他の秩序の下ではさうとは限らない、一定の秩序の下で優れたる能力ありとされる民族も他の秩序の下ではさうとは限らない、従つて、歴史が一定の秩序を要請する段階から他の秩序を要請する段階に進むにつれてヨリ秀でたる能力ありと認められる民族も異つて來る、とは歴史の教ふる所である。世界が新秩序に進むとき、これまで虐げられてゐた諸民族の性能の或るものは新しく脚光を浴びて新時代の文化を指導するものとなるであらう。實に斯かる新時代將來の爲の基礎たるの使命を聯邦經濟のあるものは持つのである。

結 論

以上に於いて我々は、世界經濟が益々統制的に非資本主義的に且聯邦經濟的に進んで行くであらうことを、且つそれ等三動向が相互に作用し合ひつゝ一體となつて進展するであらうことを、瞭にした。而して、我々は、其の論據の一つを、其の動向が進歩性を有すると言ふ點に求めた。併しながら、我々は、世界經濟の動向を斯く觀するに際して、何よりも先づ、序論に於いて我々の述べたる所を特に想起する事を要する。歴史の世界には自然の世界に於けると同じ意味の必然性は無い。我々の世界經濟の動向の認識は實踐を前提するのである。併し、論を結ぶに際して今一つ注意して置くべき事がある。本論に於いて展開されたる所は、言はゞ今日の歴史的課題としての世界經濟の動向である。歴史は、決して、右に展開せられたる所に止まるべきでない。右に展開せられたる所は、勿論ヨリ高き段階へ高めらるべき歴史の時代的一段階に過ぎない。其の事に殊にブロック經濟に就いて述べられたる所に關して強調されねばならない。